

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370103271		
法人名	社会福祉法人 淳風福祉会		
事業所名	若宮園グループホーム		
所在地	岡山市南区箕島3566-1		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 5 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370103271-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ランチピース
所在地	岡山県岡山市中区江並311-12
訪問調査日	令和 3 年 12 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①新型コロナウイルス対策を行いながら、以前のような敷地外への外出は出来ないものの、その代わりに敷地内を散歩する機会を増やし、枇杷や梅や畑の収穫のお手伝いをした事もあった。今年は梅シロップをご利用者と一緒に作って、おやつなどで希望者には飲んで頂いた。
②今年の介護報酬の改定で、栄養管理体制加算を算定し、敷地内の別施設の管理栄養士と連携して、食事量やカロリーの変更を行い、体重が健康値まで回復した方もおり、栄養管理を行いながら健康管理に繋げている。
③職員のステップアップや資格取得に向けて、今年の実務者研修や喀痰吸引等研修等に参加した職員がおり、介護福祉士の取得や喀痰吸引の実地研修を行い資格取得に向けて努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍の中、新しく「看取り支援」と「栄養管理」に取り組んでおり、看取り支援を通じて職員の資格取得及びサービスの質の向上に繋げている。また、月一回のデザート選びや法人内の管理栄養士と連携して利用者の状態に応じた栄養管理を計画的に実施するなど、利用者にとって食事が楽しみの一つとなり、健康で規則正しい、栄養バランスに優れた食生活となっている。そして、他部署と連携して業務がスムーズに(スピーディーに)行える様、利用者情報や業務内容をパソコンの共有フォルダーに保管し、職員であればいつでも見たり確認できる体制が整っており、リスクマネジメント対策も万全である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が ○ 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と基本方針をもとに、職員で意見を出し合って、実践目標を定めている。意識して実践できるように、職員が目にしやすい場所に掲示している。	玄関通路及びステーション内部に理念を掲示し、職員に周知すると共に、社内メールにログインする際、確認できるよう工夫している。また、単年度の事業計画を作成する時、理念について話し合ったり、勉強会で振り返ったりしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス対策の為、地域行事への参加はできていないが、秋に公民館で作品展示を行う。その他近隣小学校へ、法人内の施設職員と協働して高齢者体験のお手伝いに出張した。	他のグループホームと共同して、「花」をテーマにした貼り絵作品を公民館へ掲示し、地域へアピールしている。また、近隣小学校の福祉学習の一環として、車椅子や弱視の体験教育を法人職員と一緒にやっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校の福祉学習で、法人内の施設職員と協働して小学校へ行き、視覚障害の方の体験や、車椅子操作について説明を行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス対策の為、感染流行時は書面開催で行っている。施設での感染症対策や取り組み、実情を書面作成して郵送し、委員の方から意見や感想等を返信にて頂いている。多くの委員の方から励ましの言葉を頂いている。	2ヶ月に一回、書面開催しており、委員会メンバーから、事故報告の対策について聞かれたり、感染症対策に対して感謝の言葉を貰ったりしている。出された意見等はミーティング等で話し合い、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護報酬の改定に伴う質問や、体制等の手続きで不明な点があった場合は、市の担当者へ電話やメール等で質問を行っている。新型コロナウイルスに関する市や県からの情報に関しては、法人内でメール等で情報共有している。	管理者が窓口となり、退所時の請求方法など、分からないことがあれば、市担当者へ電話している。また、老施協関係から法人にメールが来るので、ログインして確認したり、居宅のケアマネージャーを通じて地域包括と密に連携したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の行為について理解し、してはいけないという認識のもと、日々ケアにあたっている。3か月に1回「身体的拘束適正化検討委員会」をオンライン会議にて行い、拘束をしないケアについて話し合っている。	3ヶ月に一回、身体的拘束適正化検討委員会を開いている。また、毎月一回、約30分～40分程度、ズームを活用して全職員参加型の会議を開いており、ケアプランと共に身体拘束についても話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会に参加し、普段のケアが色々な虐待行為や虐待に繋がるものになっていないか、再確認を行う。勉強会の資料は職員内で回覧して情報共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方が、複数ご利用者におられ、関係者への必要な連絡等を行っている。法人内の勉強会でも制度について取り扱い、参加をして理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は契約書などの資料を使用しながら、分かり易い表現で説明するように努めている。今年の改定や食費への変更等については、資料を作り、面会時などに説明をして理解して頂けるように努めた。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス対策で、面会の頻度は減ってきているが、ご家族等への電話連絡はまめにするようにしている。その時に要望や質問等を伺うようにし、運営やケアに反映させている。ご利用者からも担当を中心に要望を聞き、会議やプランにてケアに反映できるよう努めている。	家族面会時や電話で現在の様子を伝えた時に、意見や要望を聞き取っている。また、利用者は各担当者と居室で一对一の時や、散歩中に意見等を聞き取っている。家族や利用者から聞き取った内容は、ミーティング等で共有し、サービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見が出やすいような雰囲気作りを行い、月1回のオンライン会議で、全員から意見を聞けるように努めている。出た意見は、ケアやプランに反映するようにしている。	年2回、管理者と一対一で人事考課面談を行っている。移動時の付き添いや排泄時の見守りなど、職員から出た意見や提案はケアプランに反映している。また、毎月行うズームを活用した会議でも、意見等を聞き出している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回得意分野を考えながら、業務分掌を行い、職員同士でもフォローができるように努めている。介護福祉士取得を推奨し、実務者研修を受けて、資格取得し試験にのぞめるよう勤務等調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は管理者も含めて、喀痰吸引等研修に参加し、資格取得を行っている。法人内の勉強会に、交代しながら参加を行い、参加できない職員も資料の回覧等も行い理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスで直接会っての交流はしていないが、近隣や市内などのグループホーム管理者や同業者の方と電話やSNS等で情報共有を行い、ケアに取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前に必ずご本人にお会いして話を聞き、思いや要望の理解に努めている。特に趣味や嗜好、得意な事については、しっかりお聞きするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時から継続して、家族等のお困りごとや要望について細やかに伺うようにし、信頼関係作りに努めている。特に新型コロナウイルス対策で、入居までは施設内に立ち入れない為、タブレットで写真等で説明を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの受付を行う時に、相談内容やご本人とご家族等の双方の思いを確認し、基本的な介護保険サービスの説明と、他の介護保険サービス導入の可能性も提案しながら説明を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が出来る事(調理や洗濯たたみ等)は、ご利用者中心で行って頂き、職員は見守りやフォローを行っている。個々の得意な事を大切に、出来る事が継続できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナウイルス対策で、面会や外出制限はあるが、アクリル板設置や事前の予約制を導入して、可能な限り関係が継続できるようにしている。面会中止時は、電話や手紙などを通じてご利用者の様子等をお伝えするように努めた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス対策で、地域行事やボランティアの受け入れは中止しているが、以前利用していたサービス(通所、入所系)時の友人や職員とは、窓越しなどで会って、交流できるように努めた。	コロナ禍の為、馴染みの地域行事は軒並み中止となっている。また、ボランティア活動など、外部からの来訪も中止しており、デイサービスを利用していた頃の友人や近所の方が来訪した時は、窓越しで会話を楽しんでいる。家族の面会は予約制(一日3名)とし、玄関でアクリル板越しに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の相性を考えながら席の配置を固定し、レクリエーション時は感染対策を行いながら、お互い助け合っているゲームなどを取り入れて、良好な関係性が築けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了し他の施設に移られた後も、可能な限り感染対策を行ったうえで、訪問して情報提供がしやすいように努めている。ケア方法や本人・家族等の思いをお伝えし、関係者でフォローできるような関係作りを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当する職員が中心になって、思いや要望をお聞きするように努めている。言葉だけにこだわらず、日々の表情や行動にも注目し、ご本人の思いを読み取れるようにしている。	ケアプラン更新時や一対一で散歩に出かけた時などに声をかけ、暮らしの希望等の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞き取ったり、利用者の表情や行動、言動から汲み取ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族等から、習慣やよく行かれていた場所などをお聞きし、コミュニケーションに活かすようにしている。利用していたサービスの関係者からも、その時のご様子や得意とされていた事を中心に聞くようにし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送り簿やケア日誌に得意な事、不得意な事、潜在能力についての記入も行うように努め、その他職員同士のコミュニケーション等で情報共有できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員と計画作成担当者だけで完結せず、管理者を含めた他職員とも月1回のオンライン会議で話し合いを行い、意見をだしてプランに反映させている。その他、連携をとっている看護師からも意見を聞くようにしている。	担当職員が中心となり、計画作成担当者と一緒に個々の現状に沿ったプランを作成している。日々モニタリングを行っており、毎月行うカンファレンスの中でモニタリング結果を報告している。通常、4ヶ月に一回見直しを行っているが、状態・状況等に変化があればその都度、対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日誌が時系列で記入できるようになっており、日々の経過が分かり易いようになっている。情報の共有が必要な場合は申し送り簿を活用し、毎日つけるモニタリング等を参照し、担当とケアマネが中心になって介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状況や思いを大切に、ご家族等に協力も仰ぎ、過ごしやすい環境作りの提案を行っている。福祉サービスだけに捉われない、視点をひろげて生活をお支え出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス対策で、地域行事への参加は見送っているが、行政や地域での活動についての情報収集を、近隣のグループホームの管理者や住民の方から行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者は、同一敷地内に配置されている協力医を主治医として希望し、緊急時に早期対応が出来る体制を整えている。その他専門医への受診は、ご家族等の希望を伺いながら、必要時は職員が付き添いを行っている。	かかりつけ医は協力医であり、オンコール体制を取っている。また、同一敷地内にある特養の看護師と24時間体制で繋がっており、適切な医療が提供されている。専門医への受診支援は事業所で行っており、家族が話を聞きたい時は病院等で落ち合っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームの看護師と24時間体制で連携をとっている。ご利用者に異変があった場合や、普段からの状態報告は、専用の申し送り簿や電話連絡で行い、医療サービスの提供に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は可能な限りご利用者が安心して治療がうけられるよう、認知症状も含めて病院関係者に状況を提供している。退院時もスムーズに戻ってこられるように、ご家族等も含めて連携をとり、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込み時と契約時には、提供できるサービスについて管理者より説明を行い、入居時は協力医、管理者とご本人、ご家族等で面談を行い、重度化や終末期の対応できる範囲について説明を行っている。終末期の兆候があった場合は、細やかに状態の説明や予後について説明を行い、ご要望をお聞きしながら職員全員でケアにあたるようにしている。看取りについて要望があった場合は、協力医と相談の上行える体制は整えている。	令和3年度から看取り支援に取り組んでいる旨を家族に通知している。また、看取り支援のために、吸痰・吸引の資格を取得し、実践している。重度化した場合は、利用者・家族・主治医・管理者・看護師・計画作成担当者で集まり、今後の方針等について話し合っている。職員への周知はオンライン会議で行っている。看取り支援の後、デスクカンファレンスを行い、振り返っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同一敷地内で行われている勉強会に定期的に参加し、知識を深めている。事故発生時は、関わった職員だけではなく、全員で要因や再発防止について話し合い、同様な事故をできるだけ起こさないように周知できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で、新型コロナウイルス対策を行いながら、火災、地震想定避難訓練を行っている。災害時や緊急時は敷地内の施設職員と協力体制があり、感染症も含めたBCPの作成を、それぞれの施設代表者と会議を行い、作成に取り掛かっている。	年2回、夜間想定の下、法人全体で避難訓練を行っている。棟続きで老健や特養等があり、災害時の協力体制も整備されている。また、法人全体で連絡先や行動表、部屋割り、席順等を把握し、情報提供できる体制も整っている。BCPIは令和6年に完成する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者への声掛けは、マスクをつけていても、伝わりやすいトーンや表現を心掛けている。プライバシーや羞恥心にも配慮し、言葉を選んでお伝えしている。	1対1の入浴対応やトイレの見守り、さん付け呼称など、利用者のプライバシーに配慮した対応や言葉かけをしている。また、個々の人格を尊重し、聞かれたくないことは聞かないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者との信頼関係の構築に普段から心がけ、要望が言いやすい雰囲気作りに努めている。基本は担当が中心になって、場所や時間帯を考慮しながらお聞きするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本は個々に合わせた生活リズムで過ごして頂き、日中はできるだけ活動的に過ごせるよう、体操や工作等を提案して選んでして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の訪問の理美容を、希望者は利用している。希望すれば、パーマ、毛染も利用できるようになっている。普段の衣類は、できるだけご利用者に選んでもらい、必要な方は相談や介助を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の得意分野を活かし、調理や盛り付け、片付け等を分担して、食事作りを行っている。月1回、感染対策を行いながらお菓子作りをする機会を設け、その他におやつを選択できるようになっている。	毎月1回、2種類のおやつから一つ選んでもらったり、利用者の状態・状況に合わせて食事形態(6種類)を変えたりすることで、選ぶ楽しみや食べる喜びを感じながら、管理栄養士の指導の下、栄養バランスの良い食事が出来ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一敷地内の施設の管理栄養士と連携をとり、体重などの情報を伝達し、栄養状態を勘案して、食事量や接種方法をかえ、栄養状態の改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自室にある洗面台で口腔ケアを促し、必要な方は見守りや声掛け、介助を行っている。一部の方は歯科の往診をうけ、ブラッシング方法を指導してもらい、毎回実践している方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、誘導を行っている。羞恥心に配慮し、自分でできる事はして頂きながら、必要な部分を介助するようにしている。	利用者の排泄パターンに合わせてトイレ誘導しており、夜間のみポータブルトイレを使用している。排泄支援に介入する機会が増えてきているが、清拭や拭く動作は各自にお願いしており、プライバシーに配慮しながら自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為適正な水分摂取量が確保できるよう、好みに応じて水分を提供するようにしている。下剤服用後の排便の形状等を考えながら、連携している看護師と相談の上、下剤のコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を基本として、ご本人の気分や体調に応じて、時間や曜日に捉われずに柔軟な対応をするようにしている。1対1でゆったり関りながら、支援するよう心がけている。	週2日、一対一での入浴支援に取り組んでいる。希望があれば毎日入浴することも可能であるが、毎日入浴できるかどうかは利用者のADL等の状況を見て判断している。また、季節湯もあり、入浴時間や曜日を決めず、利用者のペースで支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の今までの習慣や生活リズムを大切に、就寝時間や起床時間は、できるだけご本人の希望に沿った時間になっている。日中も臥床できる時間を設け、ゆっくり寛げるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連携している看護師から、効能、服用後に注意すべき点等を教わり、職員間で情報共有し経過観察できるようにしている。服薬忘れや誤薬がないように、職員複数で確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の得意な事や要望をお聞きして、食器洗い裁縫、ぬり絵、貼り絵などをご利用者主導で出来るように支援している。読書が好きなご利用者には、定期的に図書館で借りた本をお渡しして、好きな時間に読めるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス対策で、ほぼ外出は見合わせているが、天候の良い日は、希望者と外へ散歩に行く機会を設けている。敷地内でできた枇杷や梅をご利用者と一緒にとって、梅シロップを作って飲食した。	コロナ対策を万全にした上で、天気が良ければ、敷地内を散歩したり、敷地内に出来たピワや梅を職員と一緒に収穫したり、畑に行って水やりをしたりして、外気浴を楽しんでいる。家族との外出・外食は自粛している。	外出機会が増えることに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホーム内は、トラブル防止の為、金銭は持たないようにお願いしている。敷地内に移動パン屋が来た時は、感染対策を行いながら、ご利用者に支払いしてもらった事もあった。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙でご家族とやりとりをされている方もおられ、いつでも希望されれば、電話したり、手紙を送ったりできるよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染対策で共用の場所でも安全に過ごせるように、定期的に消毒を行っている。そんな中でも、食堂や廊下には、ご利用者の方と作成した壁紙やぬり絵、貼り絵を飾っている。1か月に1回は、貼りかえを行い、季節感を感じられるように工夫している。	ホールや玄関には、手作りのリースや分担して作成した壁画、利用者の生け花作品等があり、身近に季節を感じることができる。また、毎日窓を開け、サーキュレーターで空気を循環させており、淀みのない新鮮な空間の中で、思い思いに楽しく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席の配置は、気の合う者同士で過ごせるように固定している。必要な時は、自室での時間を充実してもらったり、個別で職員と外へ散歩に出る時間を作るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ家で使い慣れた物を持参して頂けるように、入居前にご本人やご家族等をお願いしている。入居後も、ご本人の様子をみながら必要な物があれば、ご家族等へお願いしている。	以前飼っていた犬の写真や観葉植物、手作りのぬり絵カレンダー、ソファ等、馴染みの物や好みの物が持ち込まれている。また、居室で借りてきた本を読んだり、書き写したりする人がおり、個々に居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の心身状況を考え、必要であれば福祉機器の導入を行っている。実際にセンサーマットや移動バーなどを用いて安全な生活が送れるように支援している。		